

苗場山麓 ジオパーク

Vol.
41

振興協議会だより

〔発行日〕 令和2年2月25日
〔発行〕 苗場山麓ジオパーク推進室
〔お問い合わせ〕 025-765-1600



第5回苗場山麓ジオパークフォトコンテスト結果発表

第5回苗場山麓ジオパークフォトコンテストは、38名から168点の応募がありました。たくさんの方から応募いただき、ありがとうございました。

2月初旬に、なじもんにて写真に精通した方4名、認定ガイド2名、ジオパーク推進室長で審査を行いました。その中から最優秀賞、春夏秋冬部門優秀賞、スポンサー賞が選出されました。ここでは最優秀賞、春夏秋冬部門優秀賞をご紹介します。詳しい結果は苗場山麓ジオパークのホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。



最優秀賞「ちょうちん行列」 小坂 幸平



春部門「残雪の妖精」
櫻井 勝美



夏部門「高層湿原の夏」
小野塚 伊伊二



秋部門「黄金色に染まる山頂湿原」
比田井 友香



冬部門「千曲川冬景」
久保田 真一



立山黒部ジオパーク視察研修

ガイド研修では年一回、他のジオパークを訪れ、現地のジオパークガイドから案内を受ける視察研修を行っています。この研修は意見交換やガイド方法を学び、幅広いガイドができることを目的としています。また、実際にガイドによる説明を受けることで、その地域をより知ることができ、ガイド自身がその役割を担っていると認識する為に実施しています。

今回は、12月1日に立山黒部ジオパークを訪れました。参加者は23名でした。はじめに、展示施設の1つである黒部宇奈月駅に隣接する地域観光ギャラリーにて立体地形図を使った全体の説明を聞きました。昼食後の意見交換後、宇奈月の十字石、愛本の刎ね橋、生地の清水などのジオサイトを回り、山間部から海岸まで1つの河川沿いに案内して頂きました。道中では、ストーリー性を持った看板デザインや既存看板の利用についてご教示頂きました。また、意見交換では、旅行会社との連携によるガイド件数の増加などを学ぶことができました。

今回の研修でも、他のジオパークの活動を現地で見聞きすることは大変勉強になり、今後のジオパーク活動やガイドについても参考になる事ばかりでした。今後、様々なジオパークを訪れ知見を広げ、ガイド力の増進に努めていきたいと思います。





CAP会議が開催されました



令和元年度CAP会議が12月26日に津南町役場で開催され、予算削減を踏まえた議論が展開されました。商品開発部会からは、栗駒山麓ジオパーク視察に伴う学習効果を踏まえた意欲的な商品開発の話が出されました。広報部会からSNSを利用した新しい活動や高校生を巻き込んだ写真コンテストの計画に触れて頂きました。ガイド部会からは、ツアーコースの吟味と主体的実施に対する意見が出されました。資源探査部会からは中津川左岸散策道整備が、いよいよ栄村地内で着手される計画が提出されました。各委員からは、大学との協力体制への模

索と持続的な活動の意味に触れていただき、参加者全員が初心に戻り、再審査に向かう意味を噛みしめました。



信越トレイルから見た苗場山麓ジオパーク

信越トレイルは斑尾山から始まり、関田山脈稜線上を進むロングトレイルです。トレイルの一番の特徴はブナの森です。ハイカーは稜線上のブナのトンネルの中を長く歩き続けることになります。長いブナの森を抜けたハイカーにとって、苗場山麓の河岸段丘、牧場、谷合の集落と目まぐるしく変化していく風景は新鮮に映ることでしょう。同じ豪雪地ながら、苗場山の噴火活動から始まり縄文、北越雪譜の時代、戦後の開拓まで続く悠久の歴史、また豪雪地帯や日本海側特有の植物に限らず太平洋側の植物や高山植物が顔を出す植生など、その多様性が信越トレイルから見た苗場山麓ジオパークの魅力です。また信越トレイルを歩くハイカーにとっては、関田山脈から苗場山を遠く望み、苗場山側からは関田山脈の山並みを望みながら歩くことができるのも魅力です。



苗場山登山道から見た関田山脈



第6回ガイド養成講座



苗場山麓ジオパークでは、地域の魅力を知ってもらおうと一般住民を対象にした講座「お宝巡り」を開催しています。今年度は、野外と座学の講座を計6回開催しました。1月の最終回は、今年度のお宝巡りの振り返りと次年度の講座の構想、3月に実施するガイド認定検定についてお話しました。講座では、写真を3Dメガネでのぞき、崩壊と地すべりの様子を観察するなど、単に話を聴く講座にするのではなく、観る・聴く・嗅ぐ・さわる・味わうなど五感を活用できる内容を取り入れるようにしています。次年度も誰でも楽しめる講座にしたいと考えていますので、住民の皆さんから気軽に参加していただきたいです。親子での参加也大歓迎です。



新しい看板と展望台が完成しました

新しい展望台は鳥甲山がきれいに眺められる展望台で、栄村上野原の天池付近にあります。鳥甲山の南端近くまで確認でき、筋状地形が良くわかります。この展望台はユニバーサルデザインに配慮し設計され、2021年度には、車いす使用者など歩行が困難な方もアクセスしやすいようにアプローチなどの舗装も行う予定です。

看板は1月に栄村白鳥集落の国道沿いに設置されました。ジオパークでは「ジオパークの入口付近」にジオパークの範囲に入ったということが判るサインを明示したほうが良い、とされています。今回、使用をしなくなった看板があったため、再利用し、ジオパーク関係施設の案内看板を設置しました。ぜひご確認ください。



苗場山麓ジオパーク学術研究奨励事業のお知らせ

苗場山麓ジオパークでは、当地域を対象とした学術調査及び研究を支援し、苗場山麓ジオパークの学術資料の蓄積、ジオパーク活動の醸成を図るため、大学院生、研究者等を対象に地質学・地形学・考古学・歴史学・地理学・民俗学・植物学・生態学・社会学・観光学などの調査研究費の助成を行っています。令和2年度の「苗場山麓ジオパーク学術研究奨励事業」の応募締切は3月6日（金）です。詳しくは苗場山麓ジオパークのホームページ (<https://naeba-geo.org>) をご覧ください。

認定ジオガイド
が伝える

ここが好きだよジオパーク

認定ジオガイドがおすすめの場所、
もの、ことなどを紹介していきます。

本山佐利さん



ガイドとしての雑感（ガイド No.12 本山佐利）

ガイドの冥利

「ガイドさんの説明がなければ、素晴らしい風景も見たとおりの風景であって、説明をいただいて初めて風景の背景や歴史の勉強になりました」といわれることがあります。そんな時は、ガイドをやってきてよかったなあと思う幸せな時です。私は、ジオガイドをする前から津南ふるさと案内人で観光客などを案内してきました。ガイドの基本はいろいろありますが、中でも大切なものは来て頂いた方々の客層と何に興味を持っていच्छるのかを会話を通じてつかむことです。事前が無理であれば、ガイドをする中で皆さんはどこからおいでになりましたかなど何点か会話を取り入れて聞いたりするとガイドが楽になります。



大事なジオの原点

最近、いろいろな場面で持続できる社会という言葉が出てきます。ジオパークは自然との共生を考えるとまさにそのとおりだと思います。ジオという三つのパーツ、一つは私たちの足の下にある地面（ジオ）、つまり地球という惑星の肌の上で暮らしている私たちのすべての命の土台。そしてその上には、さまざまな動物や多様性のある植物がありエコロジ（生態系）を形成しています。さらにその上には人間社会があり、その暮らしは農業や林業あるいはお祭りや食文化などジオ、エコとつながっています。ジオ、エコ、人のつながりを説明することで、ツアー客のジオへの理解が一層深まると思います。



今後のガイド方法の夢

上の写真は、大地の隆起と河川のはたらきによって形成され、たくさんの段丘が狭い範囲で一望できる写真です。私はこの写真が大好きです。農業立町にふさわしい黄金色の景色がジオの魅力を引き出させています。最近はドローンの活用が一般化していますが、ジオガイドも近い将来、空撮のプロの指導でドローンを飛ばしフライト中はモニター画面にてリアルタイムで空からの映像を見ながらガイドをできないかと思っています。

左の写真は、秋成逆巻付近に見られるグリーンタフ（緑色凝灰岩）です。これは苗場山麓で実際に見ることのできる一番古い地層の「結束層」で、約1,800万年前、日本海ができ始めた頃の地層です。海底火山の噴出物が堆積したものです。これを川原まで下りて見学できるサイトとして整備できないかと思っています。駐車場として広さは十分に確保できる場所です。



突撃しよう!となりのジオ便り～伊豆大島ジオパークからこんにちは～

みなさんこんにちは！伊豆大島ジオパークは首都東京のジオパークです。東京港から高速船で1時間45分の場所にある、約4～5万年前に起こった海底で始まった噴火を繰り返してできた火山島です。伊豆大島は皆さんが住む地域と違った面がたくさんあります。5つのキーワードで紹介させていただきますのでぜひ想像してみてください。

キーワード①「若い！」

日本の歴史は数億年も前からありますが、大島が海上に顔を出したのは約2万5千年前といわれています。そんな伊豆大島は約35～39年の周期に1度、中規模程度の噴火を繰り返し、そのたびにみる景色を変えています。そして、三原山の火口周辺には毎日のように噴気が見られるため現在も活動していることが肌で感じられます。

キーワード②「黒い！」

伊豆大島の岩石といえば玄武岩。目の前にある石を拾えば、あれも、これも玄武岩。大島には玄武岩しかないとっても過言ではありません。そして、観光客にも人気の“裏砂漠”（写真①）は溶岩の飛沫が降り積って出来た黒い砂漠。海辺の砂浜や自宅の庭も黒いんです。校庭でスポーツをすれば、靴下やズボンは黒くなり、お母さんは洗濯が大変。（だからなのか？大島の人は白い砂や雪を見るとテンションがあがります。）

キーワード③「ある！」

たくさんの美味しいもの、海産物、明日葉、牛乳煎餅、くさや・・・等々、どれも火山島であるこの大地から生まれた産物は島民から愛され続けています。食べられないけれど、通称バームクーヘンと呼ばれる地層大切断面は、約100層の堆積物で出来ており、ジオパーク関係者だけでなく皆大好きなジオサイトです（写真②）。

キーワード④「ない！」

実は伊豆大島には川がありません。それは・・・穴だらけの石や火山灰が降り積って出来た水はけのよい土壌であるためです。ですからお米をつくるのが難しく、昔は主食にお芋が食べられていました。

キーワード⑤「強い！」

幾度と無く噴火によって焼け野原になっても、はじめにハチジョウイタダリの芽が出て、そこへススキ等次の植物が生え、次第に森となっていきます。そんな植物達の強い生命力を歩きながら感じられる“再生の一本道”と名付けられた道があります。それだけでなく、大島に住む人々は噴火や、土砂災害、台風災害が起こると住民たちで助け合い、離島の中で力強く暮らしています。

そんな伊豆大島ジオパーク、1986年の噴火から今年で34年・・・次の噴火も目前で、いつ噴火してもおかしくないと言われています。この景色を見られるのは今だけかもしれません！その前にぜひ一度お越しください。



写真① 裏砂漠

辺り一面真っ黒な大地は異世界と思うほどの雄大な景色。このすばらしい景色に人工物がないのは国立公園法の特別保護地区として守られているためです。



写真② 地層大切断面

約630メートルつづく地層大切断面はいつでも良い状態で観察できるように、年2回の草刈を行っています。



ガイド認定検定のお知らせ

3月14日(土)になじよもんにて第6回苗場山麓ジオパークガイド認定検定(初級)を実施します。苗場山麓に関心のある方ならどなたでも受検できます。受検料は無料です。お問合せは下記ジオパーク推進室までお電話ください。

実施日時: 令和2年3月14日(土) 10:00～11:00(9:30開場)

会場: 農と縄文の体験実習館「なじよもん」

申込締切: 3月3日(火) 17:00まで ※郵送の場合は3月3日当日消印有効

申込方法: 所定の用紙を下記申込先まで持参・郵送・FAX・メールのいずれかにてお申し込みください。

申込用紙はなじよもん、こらっせ等にあります。HPからもダウンロードできます。

申込先: 苗場山麓ジオパーク推進室 TEL 025-765-1600 FAX 025-765-2299